

想定ターゲット

【具体的、効率的】

(1) 効率的に利用促進が期待できるターゲット（前利用者群の中で、再度の利用を期待できる可能性が高い）

【河村教授の論文より】

- ・前利用者も、未利用者も、上位4つの理由までは、市民の側の内的要因によるため、利用者へと転換させることは難しい。
- ・（佐藤論文）「興味がない派」が非利用者の1／3以上を占める。図書館を利用しない人々の多くが、そもそも図書館に興味がない。
- ・未利用者は利用者として取り込むことは困難。
- ・前利用者には、子育てや仕事などで図書館利用を一時的にやめている者や様々な理由で来館するのが困難になったものなどが含まれている
- ・30～60歳代までの家事専業や被雇用の女性（忙しくなった）、60歳代以上の家事専業や無職の男女（年をとって行くのが大変になった）は図書館側のサービスの展開次第で再び利用者として取り込むことが可能。
- ・非来館型サービスの拡充と展開が効果的。
- ・今後は一度利用者となった者を離さない、あるいは非利用者の中でも前利用者をターゲットとした対策に重点をおいた方針を立て、サービスの向上を図っていくことが効率的な図書館運営につながるものと思われる。

①前利用者のうち、60歳代以降の高齢無職男女【河村】

②前利用者のうち、30～60歳代の家事専業や被雇用者の女性【河村】

【中期的展望】

(2) 図書館として、重点的に対策を講じる必要を感じたターゲット

未来の利用者、または未来を担う世代に、図書館（行政）は何ができるか（今後の図書館の役割に影響）

③子ども

- ・図書館を利用しない群が「図書館は役に立っている」と考える理由として、「子どもに必要」という回答が多数
- ・「充実を希望する資料」として「児童書の充実」を希望する声が多かった

④子どもの保護者

- ・子どもの読書習慣には保護者の考え方、促しが大きく影響する

⑤若年層（インターネット、スマホ世代）

- ・この世代に対する図書館サービスをどう考えるか

気になる意見

●「図書館は役に立っていない」という回答者の自由筆記内容
「スマホ・インターネットの普及で図書館の必要性が低下している。（利用者は限定化していると思われる）」

●「図書館は役に立っている」という回答者の自由筆記内容
「デジタル社会は便利だが、万人が利用できる点とコミュニティスペースとしても重要な施設。多種多様な知識・文化を輕易に見る（接する）ことができる。（デジタルは自分の好きなものに片寄りがちになる）」

【具体的、効率的】 (1) 効率的に利用促進が期待できるターゲット（前利用者群の中で、再度の利用を期待できる可能性が高い）		
①前利用者のうち、60歳代以降の高齢無職男女【河村】		
現状	前利用者は20代は4割で高く、30、40代で1割に落ち、その後年代が高くなるにつれて非利用率が高くなる	
非利用の理由	【60代の理由】 ※以下、いずれも複数回答	(1) 本を読まなくなった（47%） (1) 忙しくなった（47%） (3) 年をとって、行くのが大変になった（43%）
	【70代以上の理由】	(1) 年をとって、行くのが大変になった（69%） (2) 本を読まなくなった（41%） (3) 本は自分で買うようになった（24%）
この世代で利用している人の声 (1) 来館目的等 (2) 意見、要望		別紙
課題	①来館手段がない、来づらい	・車の運転をやめた
	②年齢や病気等で外出しづらい	
	③本を読みづらくなった	・本は字が小さくて目が疲れる、読みづらい
		・本が重い
必要な取組の検討 （すぐできることには※）	①※ターゲットを意識した蔵書の充実	
	②※非来館型サービスのPR	
	③非来館型サービスの拡充と展開【河村】	

【具体的、効率的】 (1) 効率的に利用促進が期待できるターゲット（前利用者群の中で、再度の利用を期待できる可能性が高い）		
②前利用者のうち、30～60歳代の家事専業や被雇用者の女性【河村】		
現状	前利用者は20代は4割で高く、30、40代で1割に落ち、その後年代が高くなるにつれて非利用率が高くなる	
	未利用者は男女の割合はほぼ同じ（男性52.0%、女性48.0%）だが、前利用者は男性より女性の方が多い（女性61.3%、男性38.7%）	
	子育てや仕事などで利用を一時的にやめている【河村】	
非利用の理由	【30代女性の理由】 （回答者：4人） ※以下、いずれも複数回答	(1) 忙しくなった（3人）
	【40代女性の理由】 （回答者：5人）	(1) 忙しくなった （4人：80%。理由：仕事2人） (2) 本を読まなくなった（2人） (3) 情報はインターネットで得るようになった（1人）
	【50代女性の理由】 （回答者：18人）	(1) 忙しくなった（39%。仕事1名） (1) その他（39%） 理由：・子どもが小さい時に一緒に行っていたが、成長したので行かなくなった（5人） ・仕事（1人） ・漫画が好きで貸し本屋で借りている（1人） (3) 情報はインターネットで得るようになった33%
	【60代女性の理由】 （回答者：17人）	(1) 本を読まなくなった（47%） (2) 年をとって、行くのが大変になった（47%） (3) 忙しくなった（41%。介護1名）
	この世代で利用している人の声 (1) 来館目的等 (2) 意見、要望	別紙
課題	・再度足を運んでもらうにはどうしたら良いか？	
必要な取組の検討 （すぐできることには※）	①※ターゲットを意識した蔵書の充実	
	②※本の除架の促進	
	③※基本的なサービスのPR促進	
	④※非来館型サービスのPR	(前述)
	⑤非来館型サービスの拡充と展開【河村】	(前述)

【中期的展望】（２）図書館として、重点的に対策を講じる必要を感じたターゲット

③子ども

現状

蔵書の充実を希望する資料の種類として、児童書が２番目に多い

非利用者の回答にも、図書館の役割として子どもの読書への期待が多い

課題

来館手段（特に小学生以下は自力で図書館に来づらい） ⇒ 「④子どもの保護者」にも関係

保護者の意識が大きく影響 ⇒ 「④子どもの保護者」へ

「読書が好き」と回答した児童生徒の割合が減少
（小６：（H28）68.3%（H29）63.6%、中３：（H28）73.5%（H29）69.3%）

H30.2発表の全国大学生協連調査「大学生の1日の読書時間がゼロの人数：53.1%」「スマホ時間の影響は強くない。むしろ、高校までの読書習慣が全体的に下がったことが要因」「子ども時代の環境が影響（近所に書店が少ない。本棚もない家庭で育った人も多く「周囲の大人が読書をリスペクトしない」

必要な取組の検討（すぐできることには※）

①※ターゲットを意識した蔵書の充実

②【中学生以上】基本的なサービスのPR促進

（前述）

③【中学生以上】非来館型サービスの拡充と展開【河村】

④学校図書館との連携

【中期的展望】（2）図書館として、重点的に対策を講じる必要を感じたターゲット

④子どもの保護者（主に30、40代を想定）

現状	前利用者は20代は4割で高く、30、40代で1割に落ち、その後年代が高くなるにつれて非利用率が高くなる	
	未利用者は男女の割合はほぼ同じ（男性52.0%、女性48.0%）だが、前利用者は男性より女性の方が多い（女性61.3%、男性38.7%）	
非利用の理由	【30代の理由】 ※以下、いずれも複数回答	(1) 忙しくなった（56%） (2) 本を読まなくなった（33%） (2) 情報はインターネットで得るようになった（33%）
	【40代以上の理由】	(1) 忙しくなった（75%） (2) 情報はインターネットで得るようになった（38%） (3) 本を読まなくなった（25%）
この世代で利用している人の声 (1) 来館目的等 (2) 意見、要望		別紙
課題	近年は共働き世帯が増え忙しい世代だが、子どもの読書習慣には保護者の意識が大きく影響	
	本を読まなくなっている	
	（再掲）H30.2発表の全国大学生協連調査「大学生の1日の読書時間がゼロの人数：53.1%」 「スマホ時間の影響は強くない。むしろ、高校までの読書習慣が全体的に下がったことが要因」「子ども時代の環境が影響（近所に書店が少ない。本棚もない家庭で育った人も多く「周囲の大人が読書をリスペクトしない」	
	①※ターゲットを意識した蔵書の充実	
	②※基本的なサービスのPR促進	（前述）
	③※図書館のPR（使いやすさ、楽しさをPR）	
	④※非来館型サービスのPR	（前述）
	⑤非来館型サービスの拡充と展開【河村】	（前述）
	⑥保護者への子どもの読書推進の啓発	
	⑦保護者自身への読書の啓発	

【中期的展望】 (2) 図書館として、重点的に対策を講じる必要を感じたターゲット

⑤若年層（インターネット、スマホ世代）

現状	未利用者ではどの年齢層でも 2 割程度の非利用者が存在しているが、前利用者は20代は 4 割で高く、30、40代で 1 割に落ち、その後年代が高くなるにつれて非利用率が高くなる。	
読書の頻度	【20代】1月に何冊本を読むか (回答者45人)	(1)0冊 (51.1%) (2)1冊 (31.1%) (3)2冊 (4.4%) (3)3～4冊 (4.4%)
利用しない理由 ※他世代と異なる	【20代】未利用の理由 (回答者8人) ※以下、3割以上が選択した内容 ※以下、いずれも複数回答	(1)もともと本は読まない (50%) (1)情報はインターネットで得ている (50%) (1)忙しい (50%) (4)本は自分で買う (38%)
	【20代】非利用の理由 (回答者19人)	(1)情報はインターネットで得るようになった (68%) (2)本は自分で買うようになった (53%) (3)忙しくなった (37%) (4)本を読まなくなった (32%) (4)借りた本を返すのが面倒になった (32%)
この世代で利用している人の声 (1)来館目的等 (2)意見、要望		別紙
課題	以前は行っていたが最近は行かなくなっている (4 割)。	
	この年代は子どもの時に市民図書館がオープンしているため、上の世代に比べ図書館利用に慣れていると考えられるが、20歳代になると利用しなくなっている。	
	(再掲) H30. 2発表の全国大学生協連調査から伺える大学生の読書離れの状況。 「大学生の1日の読書時間がゼロの人数：53.1%」「スマホ時間の影響は強くない」「大学生はアルバイトで忙しい」	
	報道によると、読書をする人はより本を読み、読まない人は全く読まない二極化が進んでいるとのこと。	
	本は読んでいて、自分で買っている様子もうかがえる。もしくは電子書籍に流れるのか？	
必要な取組の検討 (すぐできることには※)	①※ターゲットを意識した蔵書の充実	
	②※基本的なサービスのPR促進	(前述)
	③「まずは来館」のためのPR	
	④非来館型サービスの拡充と展開【河村】	(前述)

